

大崎
 昨年の納税額東日本1位は静岡県焼津市で、11ランクに945種類の返礼品で38億円。西日本1位は宮崎県都城市で、7ランクに274種類で42億円の納税額である。津野町はお茶を中心に31種類しかない。特産品への支援や開発は。

問 ふるさと納税の活用を

答 返礼品増で納税額が増



返礼品の一例

池田町長
 地域の特産品が非常に効果的で、どんどん並べることとで納税も増える。津野町産の食材を使った加工品の開発も推進しているが伸びていない。
 津野茶関連商品は16品あり、四万十源流茶としてのネーミングで販売拡大をすすめる。JA津野山等に支援をしながら、お茶生産農家に伝え特産品づくりに取り組んでいく。

問 奥四万十博の費用対効果は

答 まだまだ満足していない

大崎
 町民の参加意識が薄いと思われる前半の評価・反省と費用対効果はどうか。
 来年3月から開催される幕末維新博に向けて、後半の取り組みは。
 池田町長
 は。体験イベント・おもてなし・宣伝効果と取りくんで、入込客数・宿泊者数・体験参加者数ともに増加はしているが満足はいく結果になっていない。議論・検証をして次に繋げていく。



うなだれたのぼり旗

後半は秋冬場で厳しいが、新たな体験メニューを掘り起こし磨き上げる。
 戸田産業課長
 9つの体験メニューでは、予想以上の参加・反響があったものもある。入込客数17%、宿泊客数10%増で目標に届いていない部分もある。ホームページ等のアクセス数は22%増であり、一定の評価はできるが満足はいく結果ではない。
 のぼり旗は早急に現地確認をして適正な対応をとりたい。